

文部科学省におけるネットモラルキャラバン隊の取組



令和4年6月23日(木)

第18回 青少年の安心・安全なインターネット利用環境整備に関するタスクフォース

説明資料



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,

SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

ネットモラルキャラバン隊（令和3年度）

【事業の概要】

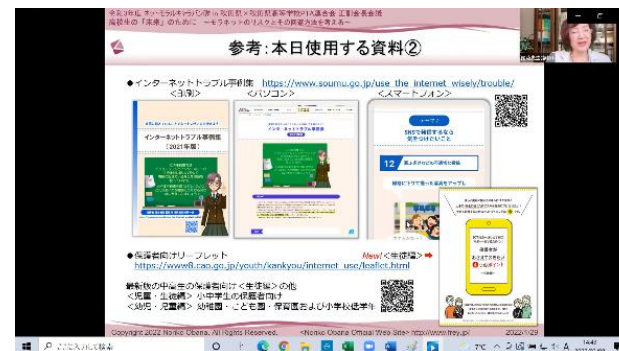
- 全国3カ所（兵庫、長野、秋田）において、保護者を対象としたシンポジウム（基調講演、座談会、で構成）を開催した。開催概要は以下の通り
 - ・兵庫：低年齢層（幼稚園、こども園）の保護者向けにYouTube上でのアーカイブ動画配信（公開期間：12/27～3/11）実施
 - ・長野：小・中学校の保護者向けに開催（YouTube上でのライブ配信）
 - ・秋田：高校生の保護者向けにYouTube上でのライブ配信実施
- 全国フォーラムについては2/22（火）に新型コロナウイルス感染拡大に伴い、Zoomでの完全オンライン配信にて開催した

【開催の成果及び課題】

- 兵庫では168回、長野、秋田でのYoutube動画閲覧件数はそれぞれ約50人と、保護者を中心とした様々な方に参加いただき、アンケート結果についても総じて高評価をいただいた
- 主催者側の課題：動画配信やオンライン開催については参加者の反応が分かりづらい、アンケートの回答率が低下する、PTA事務局を通じた情報宣伝方法
- 参加者側の反応：オンラインであれば自己都合で場所を選ばず見られると概ね好反応であった



Withコロナ時代の
ネット利用を考える
In 兵庫



高校生の『未来』のために
～ネットのリスクとその回避
方法～
In 秋田

ご参考：アンケート結果（兵庫開催分）

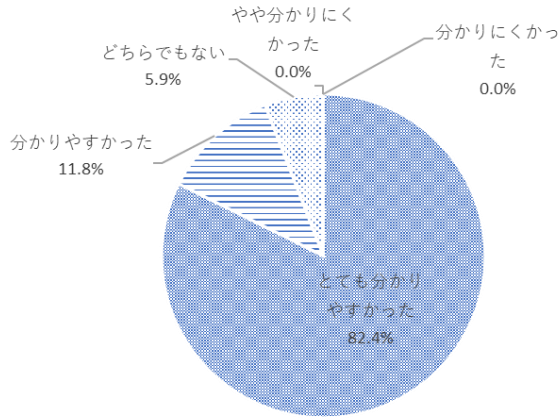
【兵庫開催分（低年齢層の保護者向け）におけるアンケート結果】

■ 調査日：動画公開期間中
 ■ 調査対象者：動画視聴者

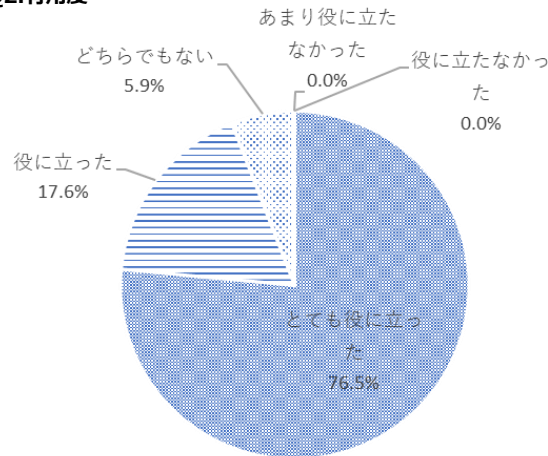
■ 調査方法：アンケートフォームを利用
 ■ 回答数：17件（視聴者全体のうちの一部）

■ 設問内容：シンポジウムの理解度、有用性
 ネットモラル教育を行う上で充実してほしい情報 等

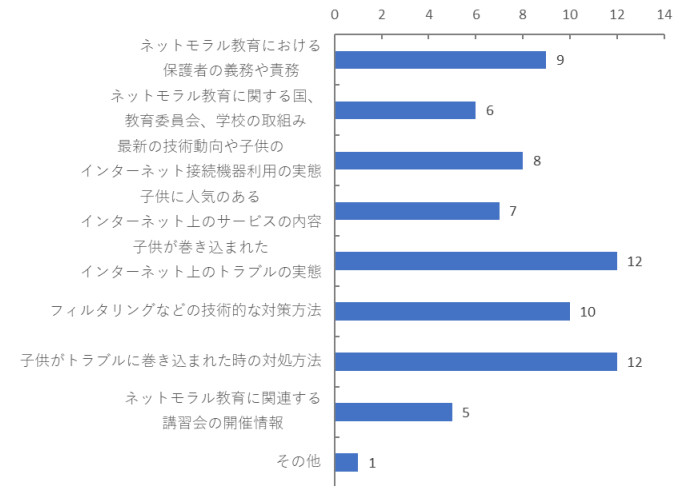
Q1.理解度



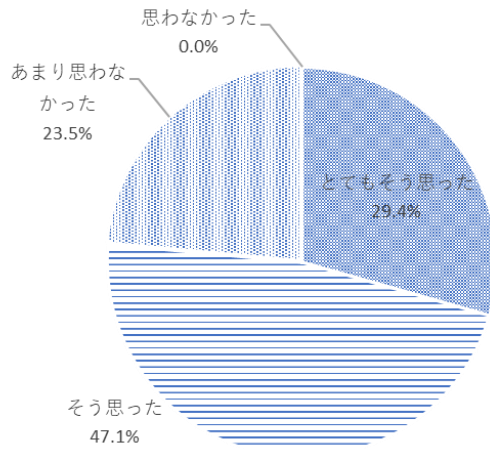
Q2.有用度



Q3.今後求める情報提供



Q4.動画を視聴して、地域での啓発活動に取り組もうと思ったか



Q5.Q4でそのように回答した理由

- ・子供のネット中毒の身近さが恐ろしくなり、対策を具体的に考えられました
- ・ネット利用の低年齢化が進んでいること
- ・ネット利用について家庭でのルール作りが大切だという点が様々な統計やデータで示されていること。
- ・日頃から相談できる親子関係でいること、ネットより楽しいことを見つけることといった具体的なアドバイスが参考になりました。
- ・今の子供たちがどのくらい、どんなふうに関心、スマホを使っているのかがわかり、自分の子供もいつか使うときのための心構えができました。
- ・ネットを始める時のルール作りや高校生になるまでが親が介入できる時期で、今から取り組む必要があること。子の周りの大人が共通認識を持って取り組み、その後子どもと一緒にルールをきめるという点。
- ・子どもの思いに耳を傾けるといった学生の方の発表内容、時間管理、内容把握、コミュニケーションといったネット依存対策、思春期前からのネット利用の試運転の可能性についてのお話がとても参考になった。また、保護者の方の子どもへの接し方や考えについても刺激になった。